

鎌倉市
子ども・若者育成プラン(案)

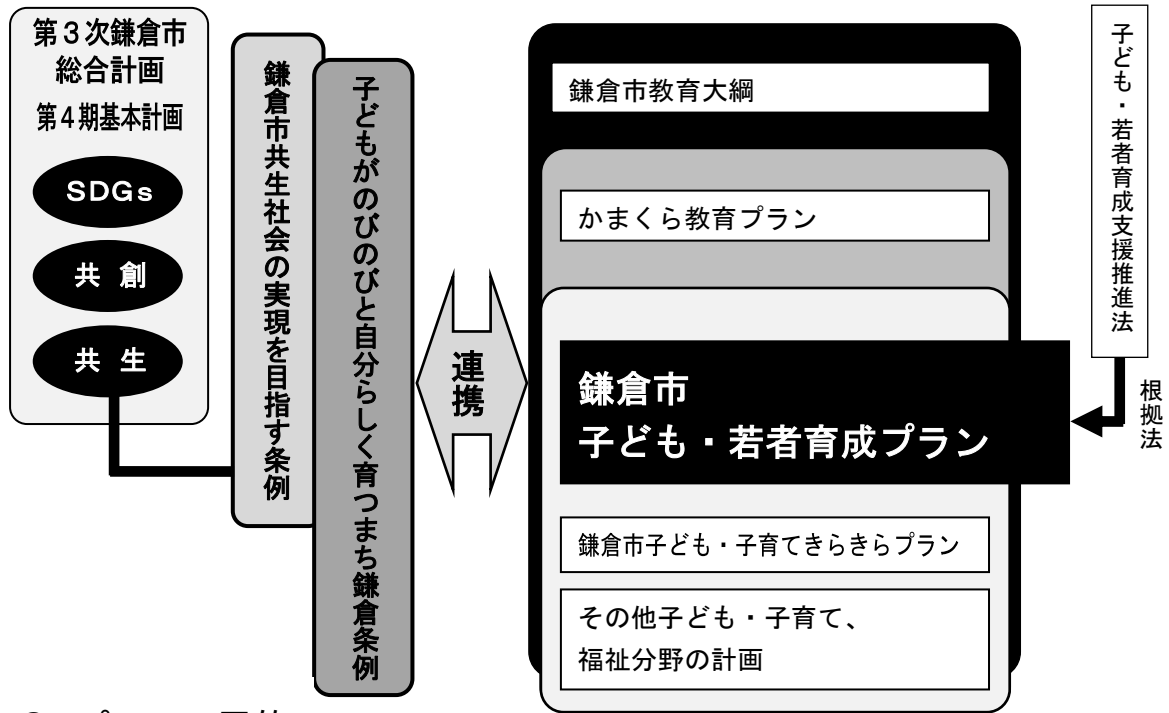
令和2年 7月29日

令和2年 10月29日

第1章 計画策定にあたって

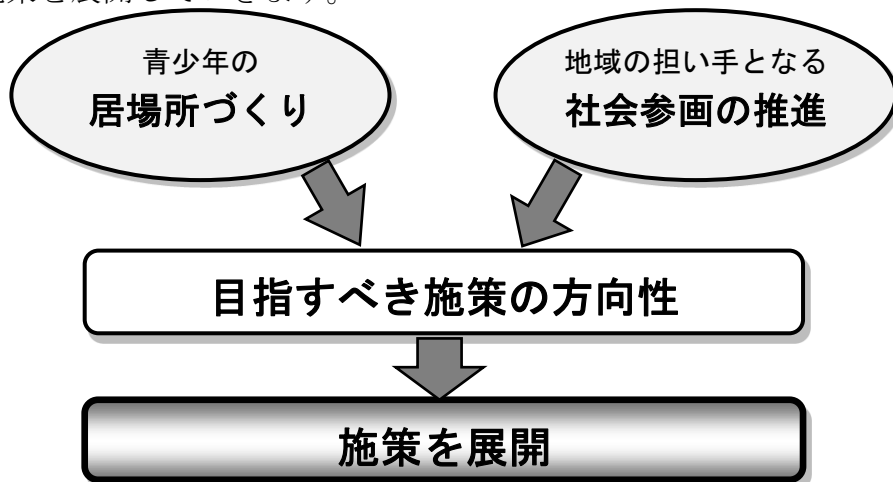
1 プランの位置づけ

平成 22 年 4 月 1 日に施行された「子ども・若者育成支援推進法」の趣旨を踏まえ、第 3 次鎌倉市総合計画第 4 期基本計画に位置付けている「青少年の育成・支援」の個別計画として、このプランを位置づけます。



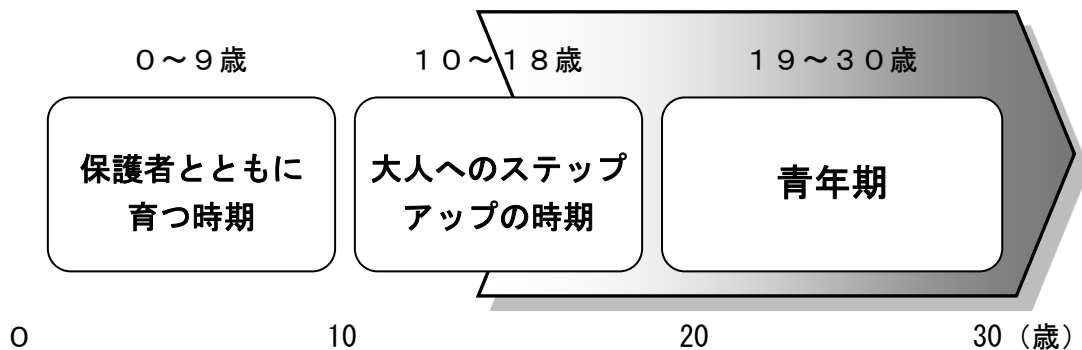
2 プランの目的

平成 28 年に策定したプランは、「青少年の居場所づくり」、「社会参画の推進」、「支援体制の充実」の 3 つの取り組みを重点としてきました。令和 2 年度からひきこもり等に対する「支援体制の充実」については福祉分野を中心に取組むことから、今回の改定では、改定前の理念や目標を踏襲しながら、「青少年の居場所づくり」と「地域の担い手となる青少年の育成」の 2 つの取り組みを柱に更に充実していくこととし、施策を展開していきます。



3 プランの対象

鎌倉市に居住し生活する主に中・高校生から30歳までの青年期を対象とします。



4 プランの期間

プランの期間は令和3年度からの5年間としますが、中間年度に当たる令和5年度に、中間見直しを行います。

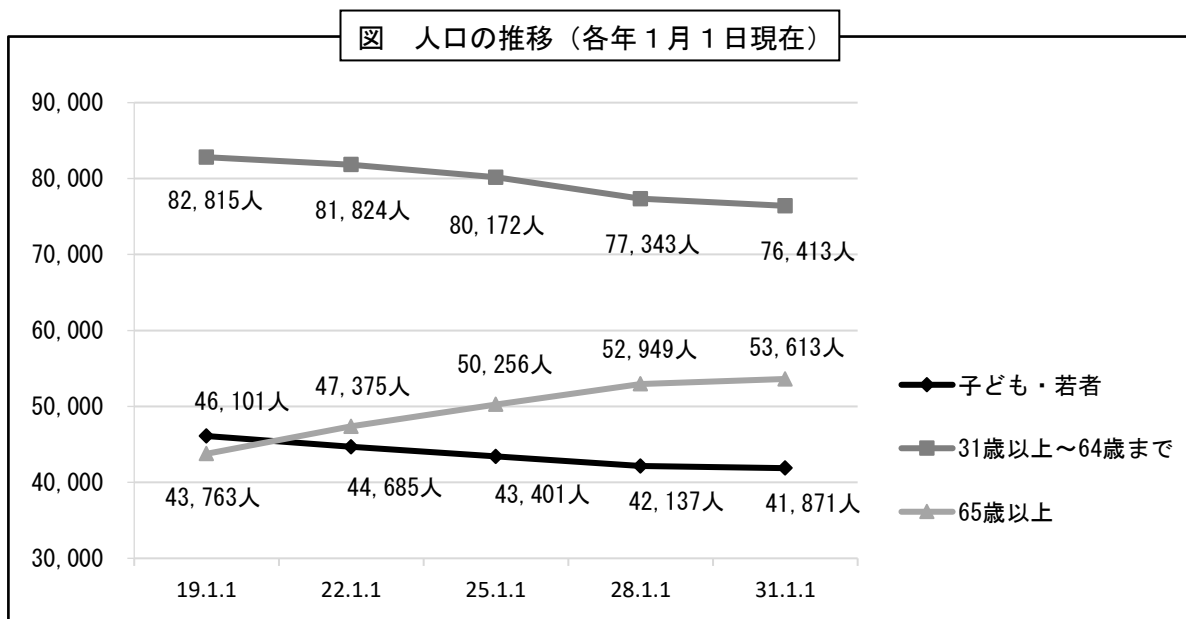
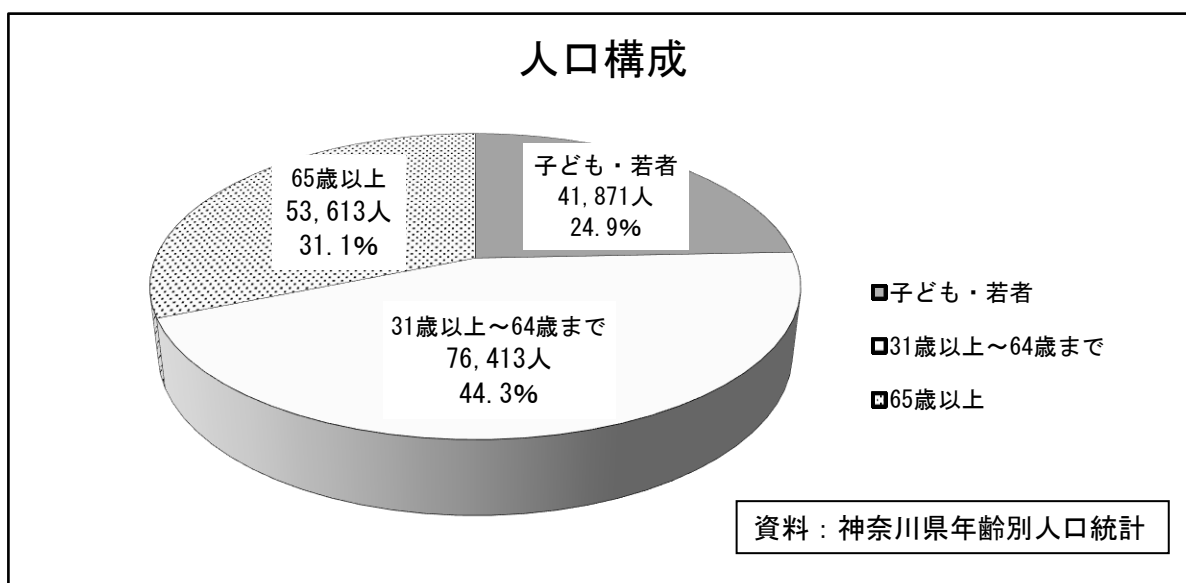
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
改定					
	計画期間				
			中間見直し		

第2章 青少年を取り巻く状況

1 人口

平成31年1月1日現在の鎌倉市における子ども・若者（0歳～30歳）の人口は、41,871人で、全人口（172,254人）に占める割合は24.9%となっています。また、31歳以上64歳までの人口は76,413人で全人口に占める割合は44.3%、65歳以上は53,613人で全人口に占める割合は31.1%となっています。

徐々に子ども・若者の人口は年々減少し続け、65歳以上の人口が増えています。平成21年1月1日以降、65歳以上の人口が子ども・若者の人口を上回っています。

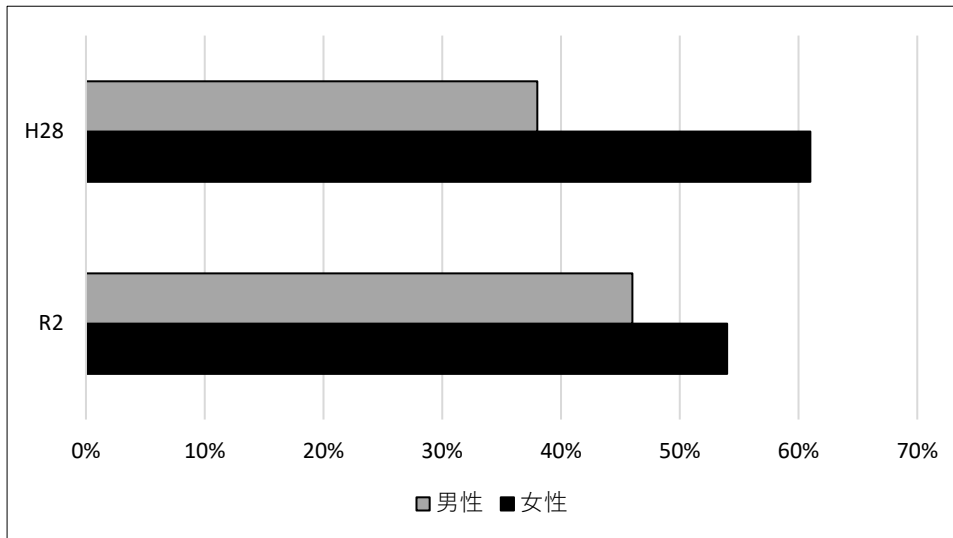


2 アンケート調査結果から見える現状

I) 鎌倉市成人のつどいアンケート結果

令和2年1月13日に開催した「成人のつどい」(参加者 1,143 人)において、平成28年「成人のつどい」で実施したアンケートと同じ内容で意見聴取を実施しました。

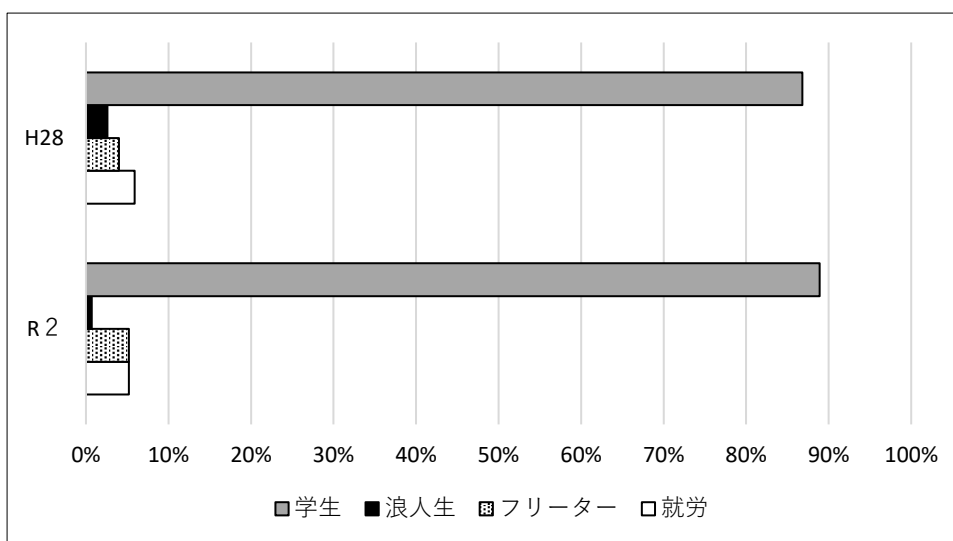
1 《回答者の性別》



	男性	女性	未記入	合計
平成28	58人(38%)	94人(61%)	1人	153人(100%)
令和2	133人(46%)	156人(54%)	0人	289人(100%)

※未記入のものについては、集計から除外しました。

2 《回答者の所属》

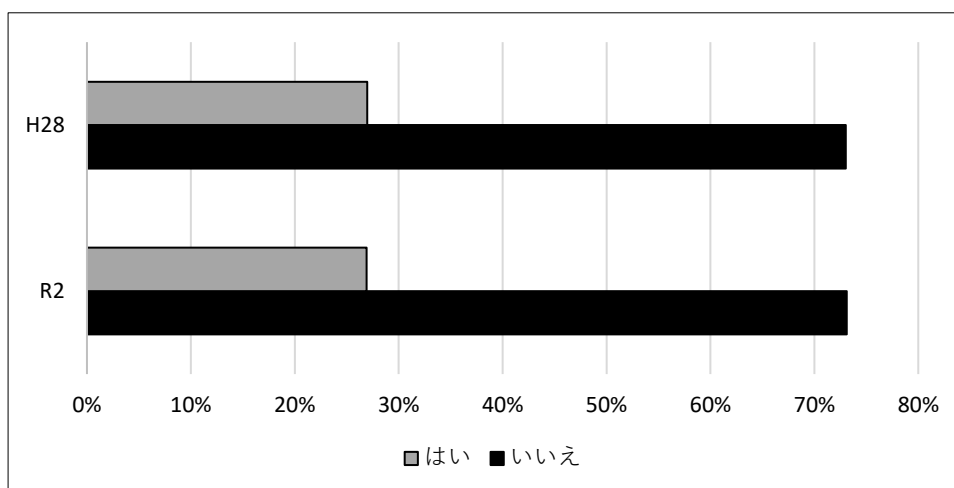


	学生	浪人生	フリーター	就労	未記入	合計
平成 28	132 人(86%)	4 人(3%)	7 人(5%)	9 人(6%)	1 人	153 人(100%)
令和 2	255 人(89%)	2 人(1%)	15 人(5%)	15 人(5%)	2 人	289 人(100%)

※未記入のものについては、集計から除外しました。

【質問項目】

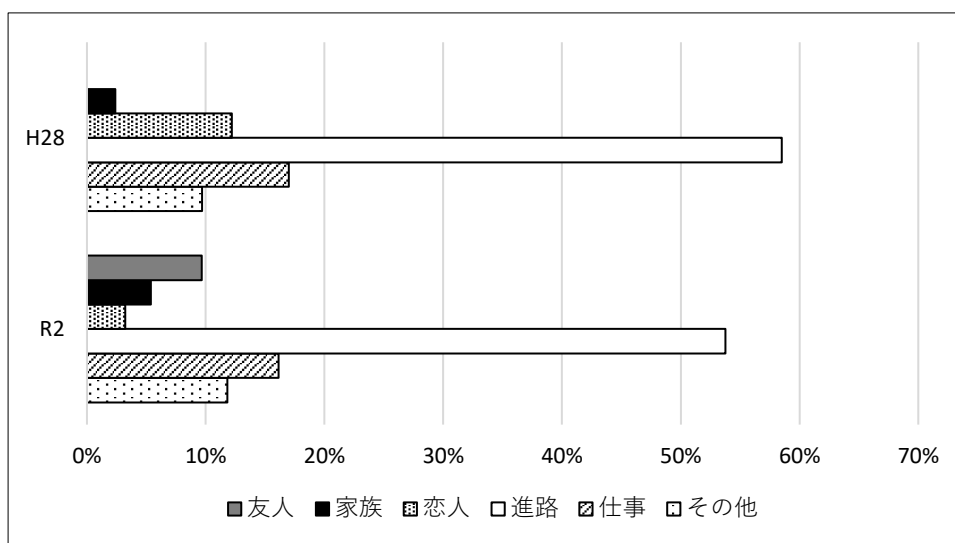
3 悩みや困っていることはありますか。



	はい	いいえ	未記入	計
平成 28	41 人(27%)	111 人(73%)	1 人	153 人(100%)
令和 2	75 人(27%)	204 人(73%)	10 人	289 人(100%)

※未記入のものについては、集計から除外しました。

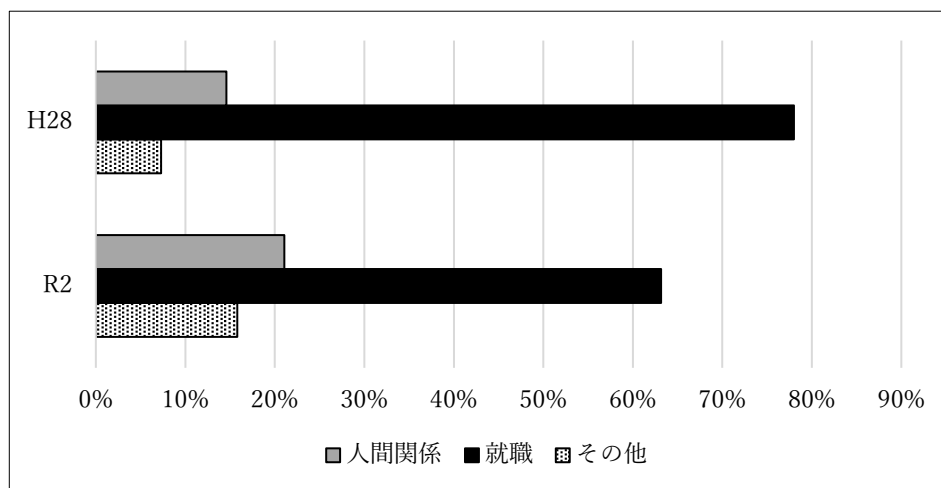
3-1 「はい」と答えた方の回答の内訳



	友人	家族	恋人	進路	仕事	その他
平成 28	0人 (0%)	1人 (2%)	5人 (12%)	2人 (59%)	7人 (17%)	4人 (10%)
令和 2	9人 (10%)	5人 (5%)	3人 (3%)	50 (54%)	15人 (16%)	11人 (12%)

※複数回答のため、回答人数と回答数が合致しません。

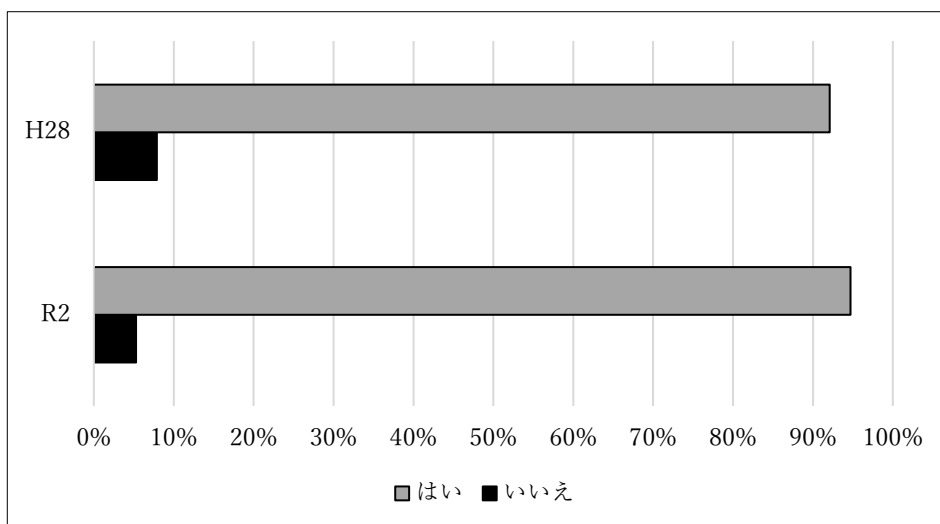
3-2 悩みや困っていることはどのような内容ですか。



	人間関係	就職	その他
平成 28	6人 (15%)	32人 (78%)	3人 (7%)
令和 2	16人 (21%)	48人 (63%)	12人 (16%)

※複数回答のため、回答人数と回答数が合致しません。

4 居心地の良い場所がありますか。

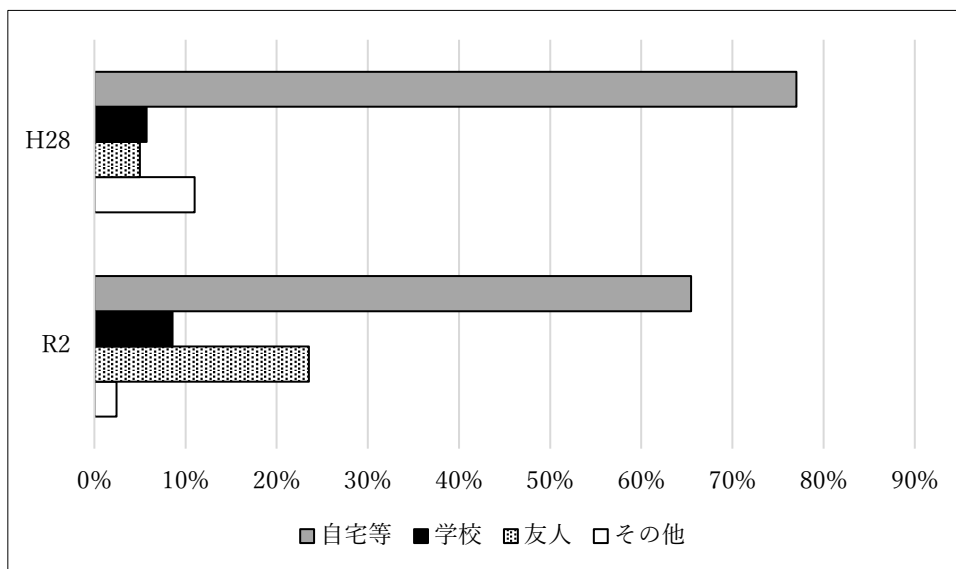


	はい	いいえ	未記入	計
平成 28	140 人(92%)	12 人(8%)	1 人	153 人
令和 2	266 人(95%)	15 人(5%)	8 人	289 人

※未記入のものについては、集計から除外しました。

4-1 「はい」と答えた方の具体的な場所

具体的な居心地の良い場所は、令和2年では自宅が12ポイント減少したことに対し、友人が18ポイント増加しています。

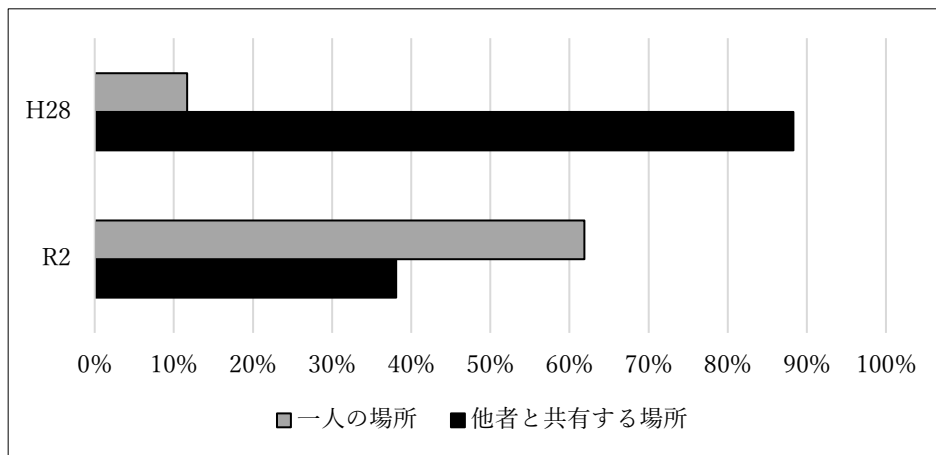


	自宅等	学校	友人	その他
平成 28	99 人(77%)	8 人(6%)	7 人(6%)	14 人(11%)
令和 2	214 人(65%)	28 人(9%)	77 人(24%)	8 人(2%)

※複数回答のため、回答人数と回答数が合致しません。

4-2 居心地のいい場所と感じるのはどちらですか。

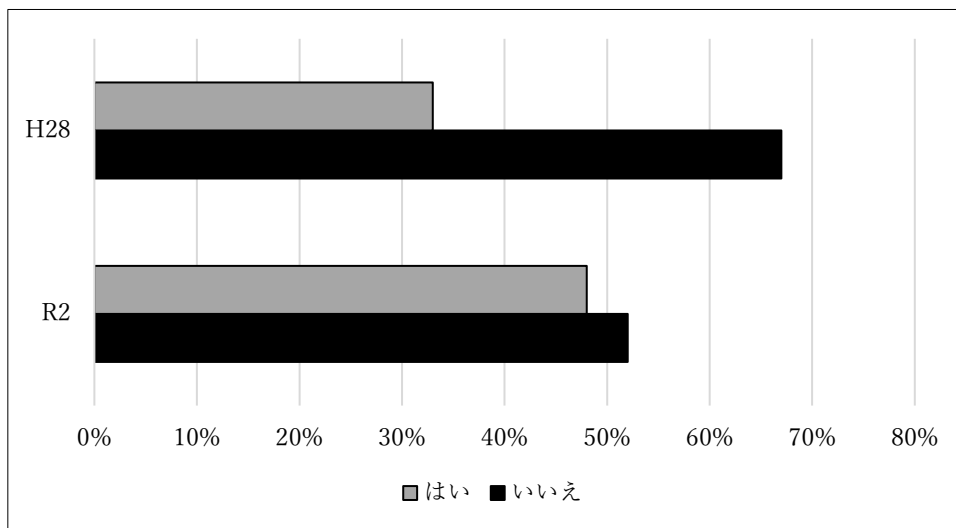
令和2年は、一人での場所が50ポイント増加しており、他者と共有する場所は50ポイント減少し、逆転しています。



	一人の場所	他者と共有する場所	計
平成 28	15 人(12%)	113 人(88%)	128 人
令和 2	138 人(62%)	85 人(38%)	223 人

5 地元のためになにかやってみたいですか。

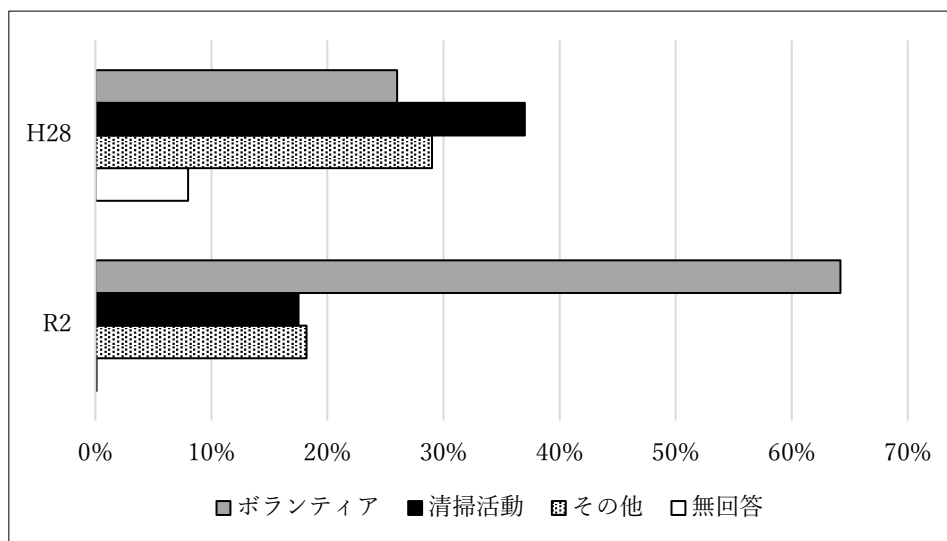
地元のためになにかやってみたいかは、令和2年は15ポイント増加しており、ボランティア意識が高まっていることがうかがえます。



	はい	いいえ	未記入	計
平成 28	49 人(33%)	101 人(67%)	3 人	153 人
令和 2	131 人(48%)	142 人(52%)	16 人	289 人

※未記入のものについては、集計から除外しました。

5-1 「はい」の方はご回答ください。どのような活動をやりたいですか。



	ボランティア	清掃活動	その他	無回答
平成 28	13 人(27%)	4 人(8%)	18 人(37%)	14 人(28%)
令和 2	88 人(64%)	24 人(18%)	25 人(18%)	0 人

※複数回答のため、回答人数と回答数が合致しません。

【クロス集計結果】

1 悩みや困っていることはありますか(縦軸)× 居心地のいい場所(横軸)

	一人の場所 の方が居心地が良い	他者と共有する場所 の方が居心地が良い	計
悩みや困っていることがある	73%	27%	100%
悩みや困っていることはない	56%	44%	100%

2 悩みや困っていることはありますか(縦軸)× 地元のためになにかやってみたいか(横軸)

	地元のためになにか やってみたい	地元のためになにか やってみたくない	計
悩みや困っていることがある	63%	37%	100%
悩みや困っていることはない	42%	58%	100%

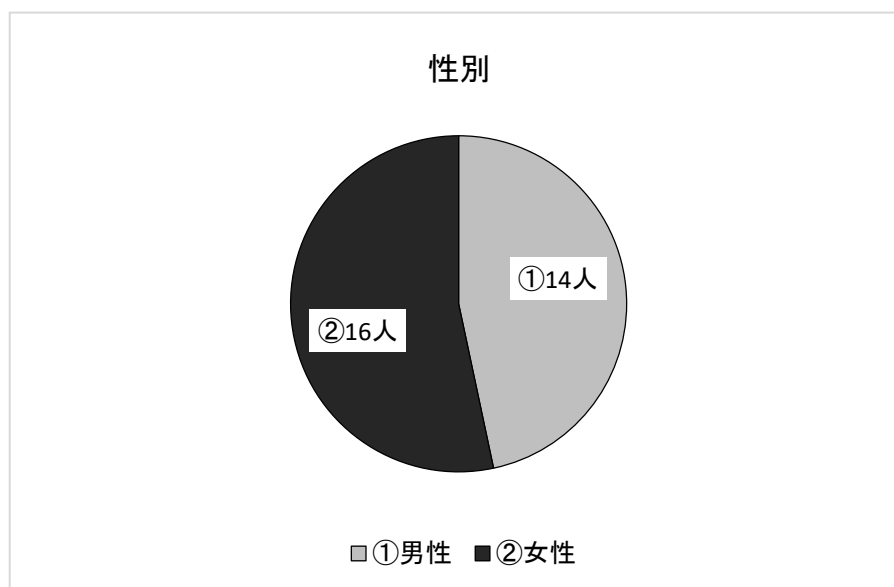
成人のつどいアンケート結果のまとめ

- ・男女とも9割前後は、「居心地のいい場所がある」と回答しています。
- ・具体的な場所は、「自宅」が最も多く、次いで「友人と過ごす場所」となっています。
- ・「一人の場所が居心地がよい」と回答した人が約6割、「他者と共有する場所が居心地がよい」は4割弱の回答となっています。
- ・悩みや困っていることがある人は、一人での場所を居心地がよいと感じている人が7割と多くなっています。
- ・悩みや困っていることがない人は、一人での場所を居心地がよいと感じる人と、他者との共有の場が居心地がよいと回答している人が半々となっています。
- ・「地域のために何か行いたい」との回答は平成 28 年のアンケート調査より増加しています。
- ・悩みや困っていることがある人は、地元のために何かやりたいと6割が回答しています。
- ・悩みや困っていることがある人は、一人の居場所が心地よいと感じている一方で、地域貢献に関心があると回答している人が多いです。

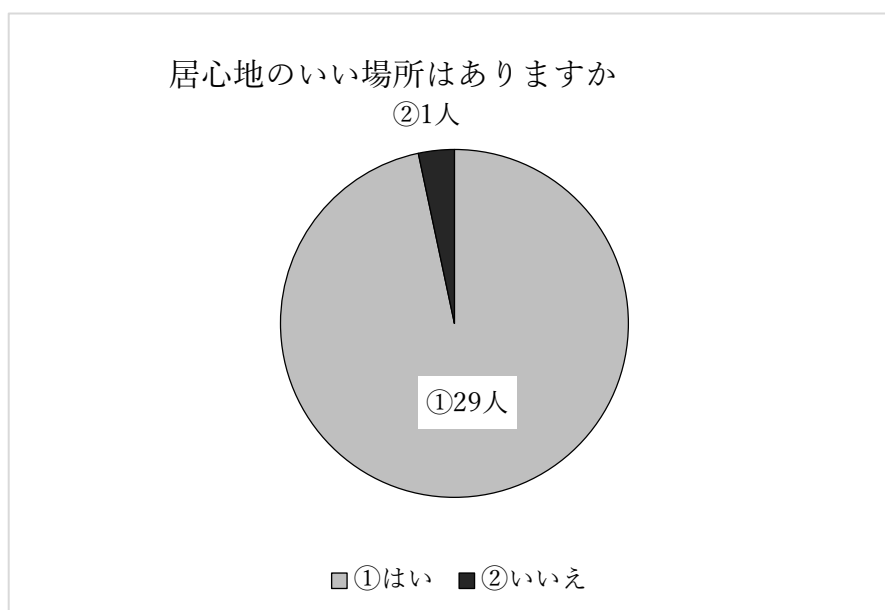
Ⅱ) 鎌倉市新採用職員アンケート結果

令和2年4月に「居場所」や「社会参画」について、鎌倉市役所新採用職員 30 名 (主に 20 代) に対し、アンケートを実施しました。

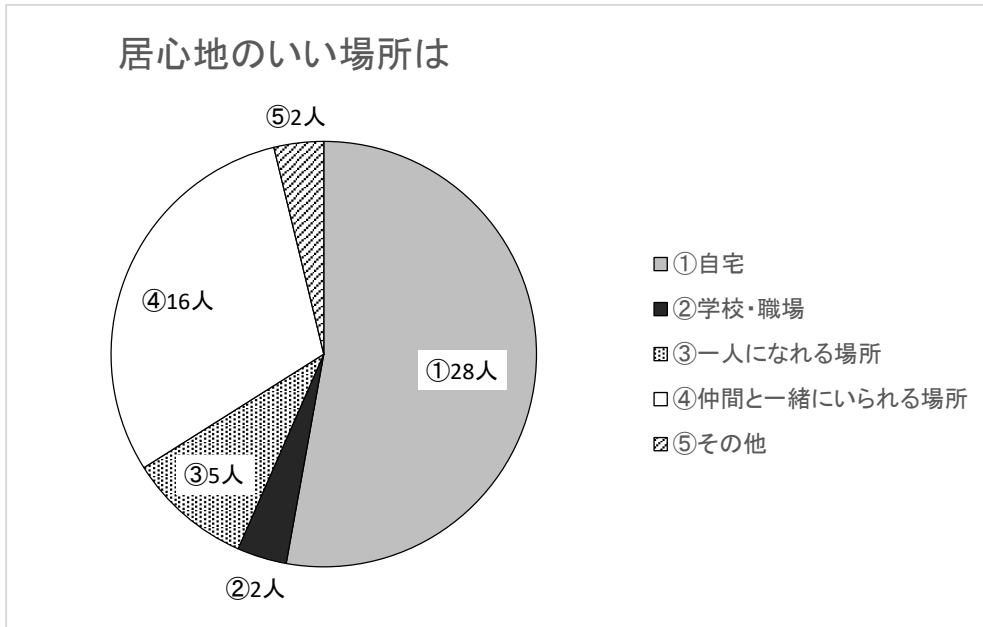
1 《回答者の性別》



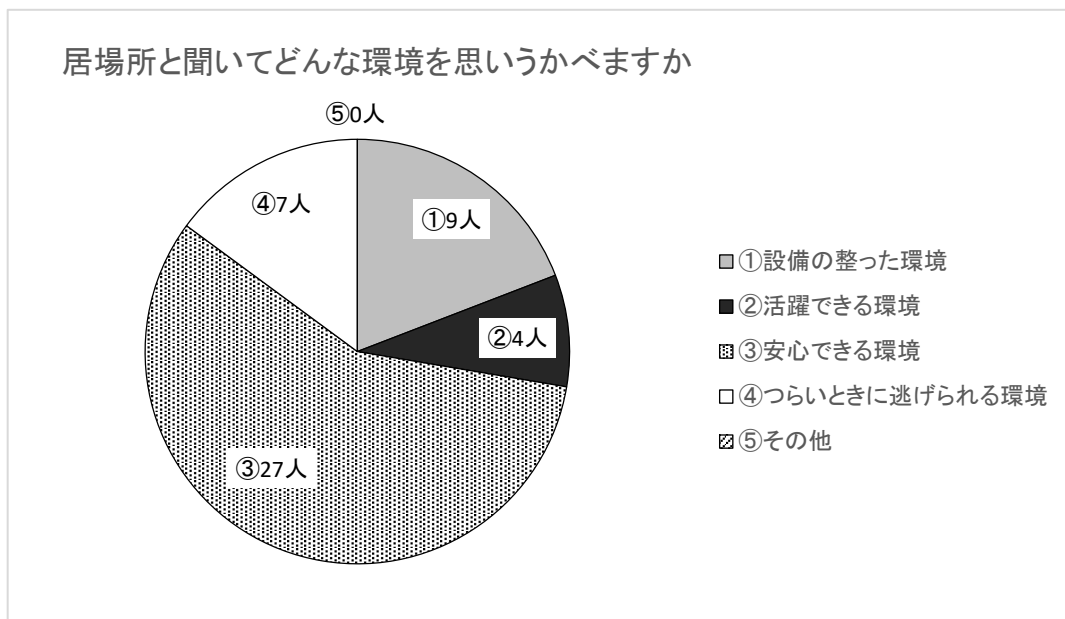
2 居心地の良い場所がありますか。



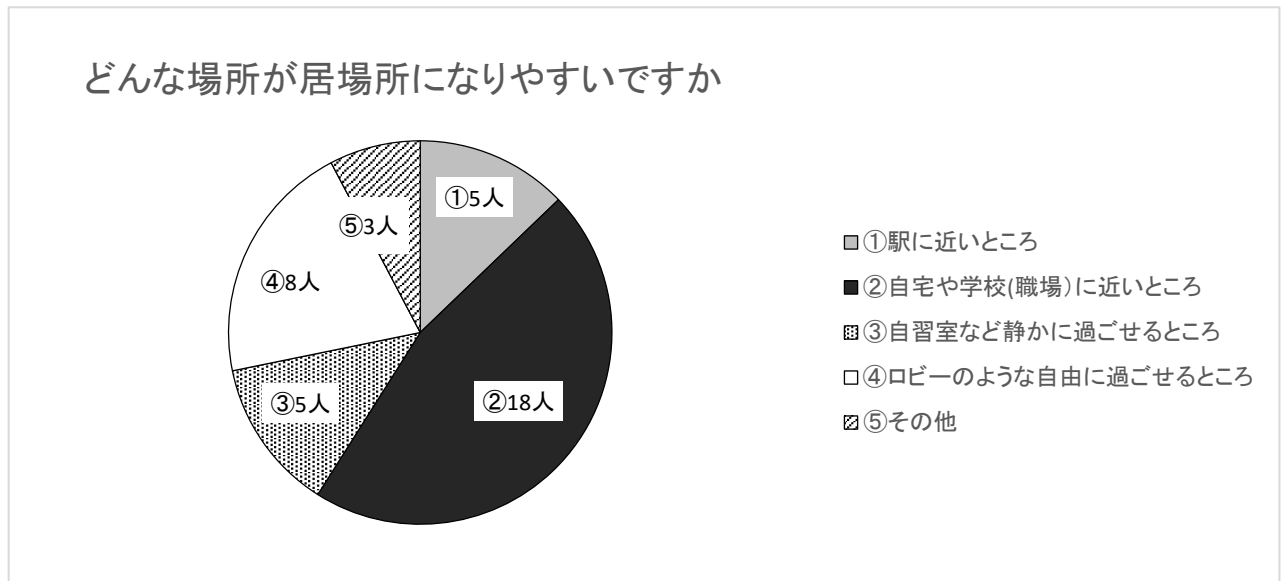
2-1 「はい」と答えた方の具体的な場所(複数回答)



3 居場所と聞いて思い浮かべる環境(複数回答)

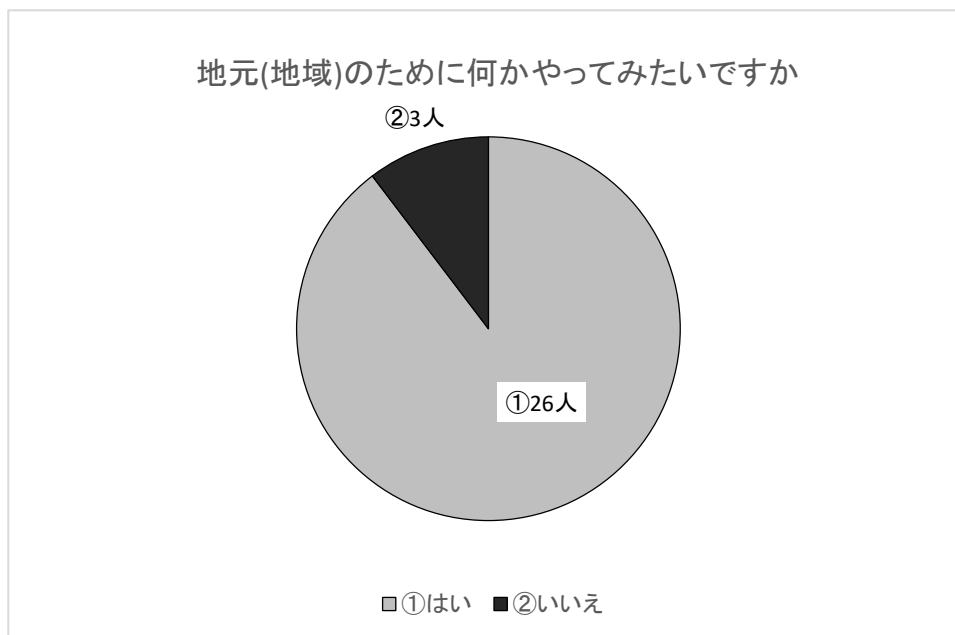


4 どんな場所が居場所になりやすいか(複数回答)

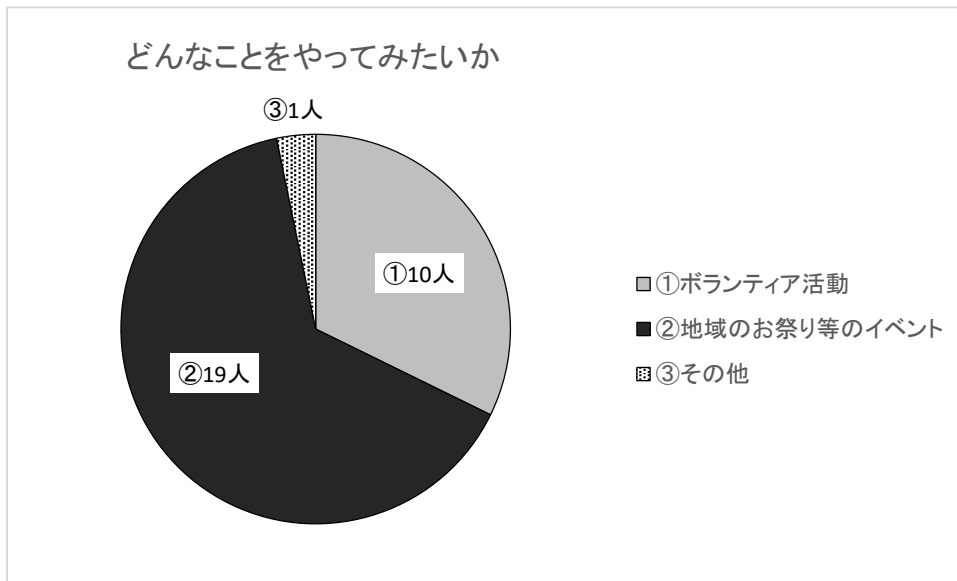


その他の居場所としては、「行き慣れた所」「大きな公園(散歩やゆっくり自然にふれる)」「自宅」といった回答が見られました。

5 地元(地域)のために何かやってみたいか



5-1 「はい」と答えた方の具体的な内容



「その他」については、「子どものいる保護者の方が安心して子育てできるようなきっかけ作り」といった回答が見られました。

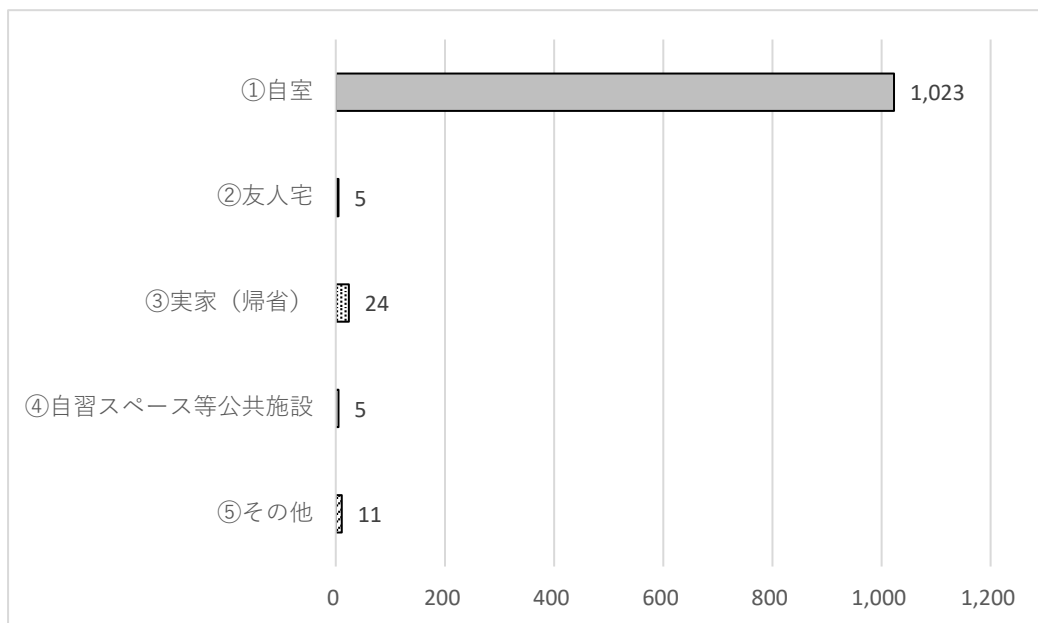
新採用職員を対象としたアンケート結果まとめ

- ・「自宅・一人になれる場所」の回答数は 33 人、「仲間と一緒にいられる場所」は 16 人となっています。
- ・「居場所と聞いて思う環境」については、27 人が「安心できる環境」、7人が「辛いときに逃げられる環境」と回答しています。「設備の整った環境」は9人、「活躍できる環境」は4人でした。
- ・「地元(地域)のためにボランティア活動や地域のイベントに参加したい」が 26 人と回答しています。

Ⅲ)新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の臨時休校に関するアンケート結果

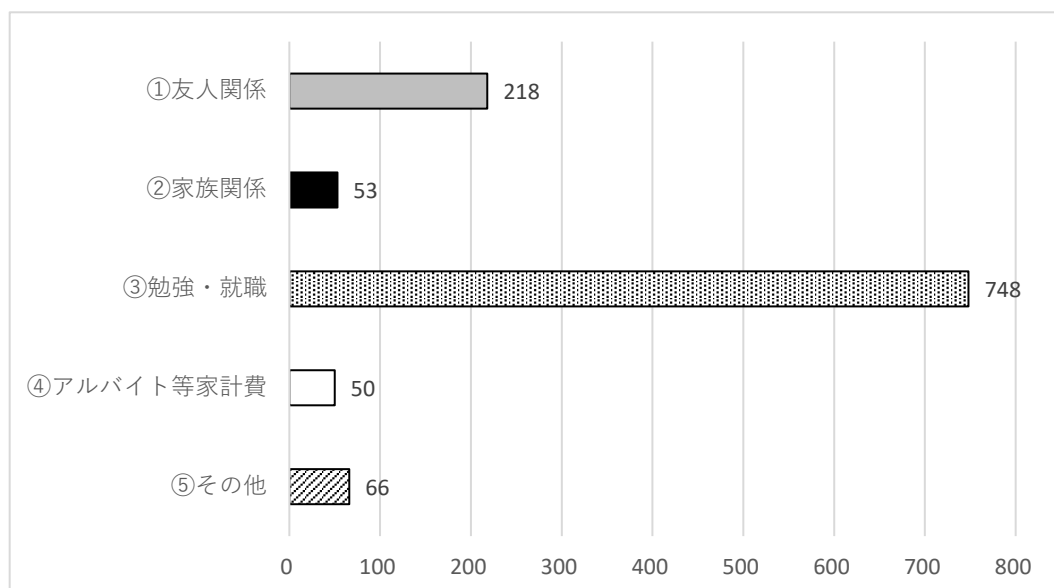
鎌倉市内県立高等学校在学学生、市内在住・在学の大学生を対象に、令和2年9月にアンケートを実施し、1,071人から回答がありました。

1 臨時休校期間中過ごした場所について



・臨時休校中は外出自粛により、自室で過ごしていた人が多く見られました。

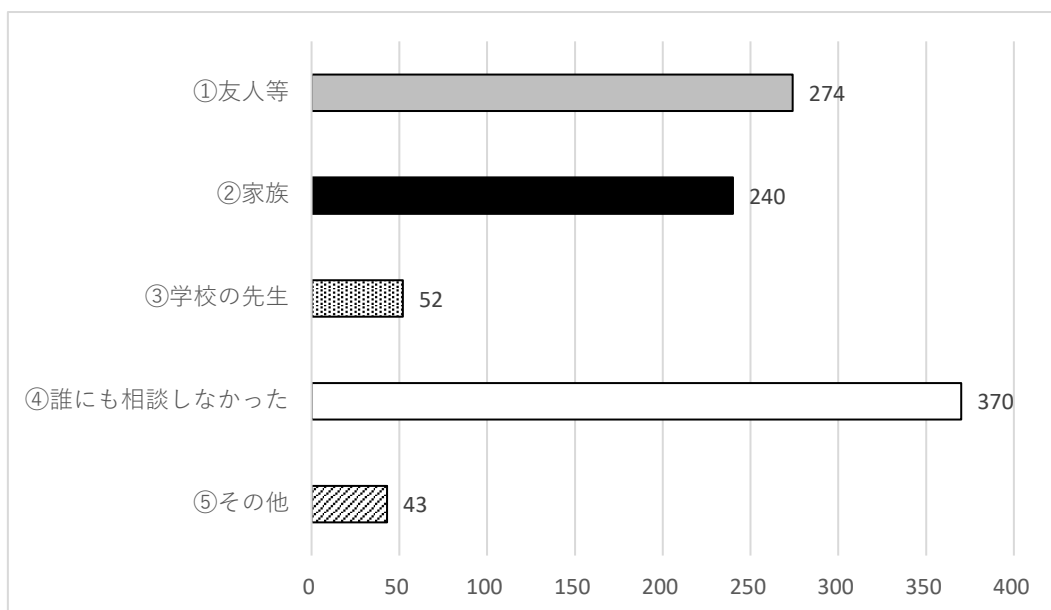
2 臨時休校期間中困ったことや不安だったこと【複数回答】



・勉強・就職の不安を抱える人が多く、課題でわからない点について質問ができないことや、勉強の進みが遅れること、自分の勉強方法への不安という意見が多く見られました。また、自宅ですごすため、勉強がはかどらないという意見もありました。

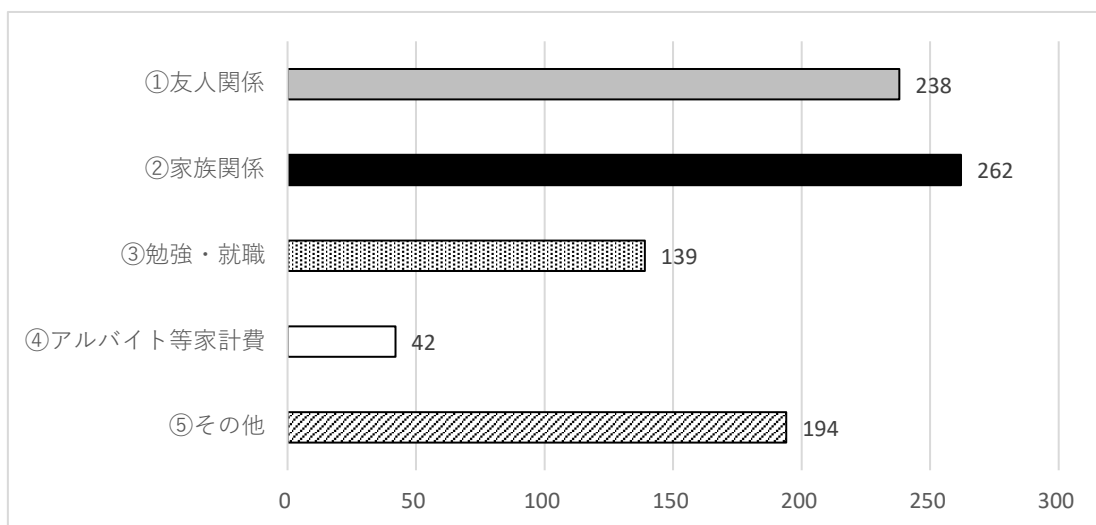
- ・高校入学やクラス替えを経験し、新しい友人ができるかどうかという点に不安を抱えるという意見や、また、友人と会えず寂しいという意見もありました。
- ・家族と一緒に過ごす時間が多いことでストレスを感じるという意見がありました。
- ・アルバイトをしたくてもできないという意見、部活動の休止や外出する機会が減ったことで運動不足になったこと、生活リズムが崩れたという意見が見られました。

3 問2の状況を改善するため誰かに相談したか【複数回答】



- ・友人や家族に相談した人が半数以上を占めていますが、誰にも相談しなかったという回答も次に多い状況でした。
- ・その他では塾の先生に相談した人が多く見られました。

4 臨時休校期間中よかったこと【複数回答】



【自由記述】

- ・友人と会えない分たくさん連絡を取り、仲が深まったこと、離れているからこそ友人を大切に思えたという意見が多くありました。
- ・家族と過ごす時間が増え、仲が深まったこと、一緒に食事をする機会が増えたという意見も多く見られました。
- ・勉強時間が確保できたこと、自分のペースで集中して取り組めたこと、受験勉強を始めるいい機会になったという意見もありました。
- ・外出自粛により貯金が増えたこと、休校になったことでアルバイトのシフトを多く入れることができたなど金銭面についての意見も見られました。
- ・その他では、自宅にいてゆっくり過ごすことができたこと、ゲームや自分の趣味、トレーニングなどの機会が増えたという意見がありました。

5 再度、臨時休校になった場合、どこでどのように過ごしたいか。【自由記述】

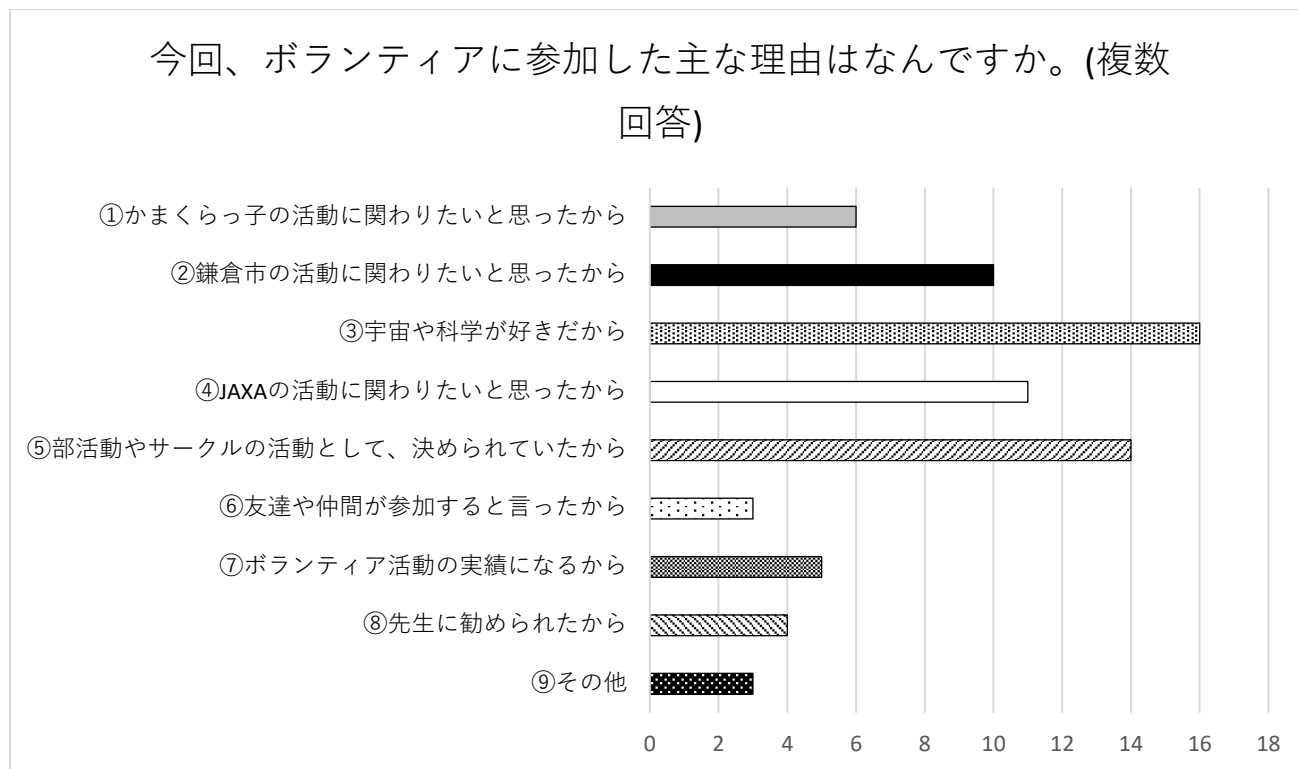
- ・自宅（リモートを含む）や塾、図書館で勉強をする。（392件）
- ・自宅でゆっくり過ごすこと、好きなこと、やりたいことをする。（355件）
- ・読書やトレーニング、ゲーム等の自分の趣味をして過ごす。（94件）
- ・友人と過ごしたい、遊びたいという意見。（14件）
- ・アルバイトをしながら勉強する。（6件）

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の臨時休校に関するアンケートまとめ

- ・外出自粛により、勉強や就職について相談ができず、将来への不安を感じる人が多くみられました。
- ・外出自粛による肯定的な意見として、友人と会う機会が減ったことで改めて友人を大切に思えたこと、家族との時間が充実したことで家族を大切に思うことができたとの回答が半数以上を占めています。
- ・再度、外出自粛となった場合、静かで、安全・安心と感ずることができる自宅等で、自分のペースで勉強や好きなことで過ごしたいという回答が7割以上を占めています。

IV)放課後かまくらっ子ボランティア参加者へのアンケート結果

令和元年度、放課後かまくらっ子夏の教室にボランティアとして参加した中学生・高校生、ジュニアリーダーズクラブ 29 人にアンケートを実施しました。

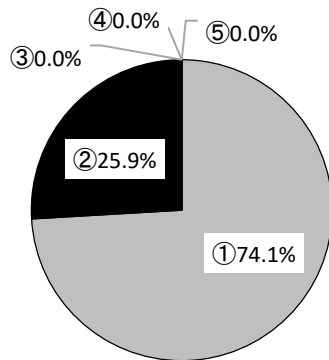


1 今回、ボランティアに参加した主な理由はなんですか。(複数回答)

- ①かまくらっ子の活動に関わりたいと思ったから 6人
- ②鎌倉市の活動に関わりたいと思ったから 10人
- ③宇宙や科学が好きだから 16人
- ④JAXAの活動に関わりたいと思ったから 11人
- ⑤部活動やサークルの活動として、決められていたから 14人
- ⑥友達や仲間が参加すると言ったから 3人
- ⑦ボランティア活動の実績になるから 5人
- ⑧先生に勧められたから 4人
- ⑨その他 3人

- ・弟がかまくらっ子にいるから
- ・子どもが好きだから
- ・親に勧められたから

ボランティア活動は楽しかったですか

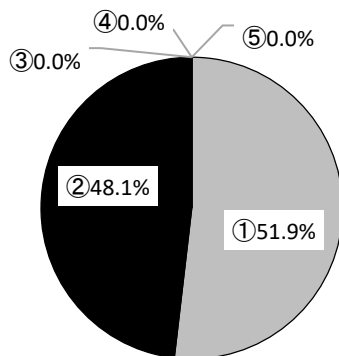


①とても楽しかった
 ②楽しかった
 ③どちらともいえない
 ④あまり楽しなかった
 ⑤楽しなかった

2 ボランティア活動は楽しかったですか。

①とても楽しかった	74.1%
②楽しかった	25.9%
③どちらともいえない	0.0%
④あまり楽しなかった	0.0%
⑤楽しなかった	0.0%

活動の中で、十分に力を出せたと思いますか。

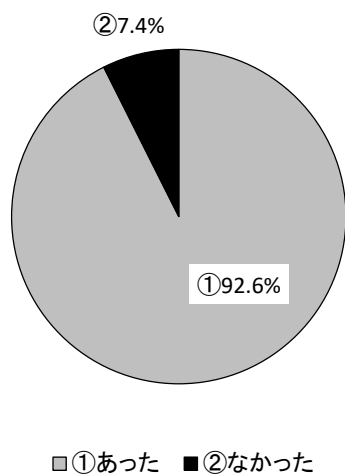


①そう思う
 ②ややそう思う
 ③どちらともいえない
 ④あまりそう思わない
 ⑤そう思わない

3 活動の中で、十分に力を出せたと思いますか。

① そう思う	51.9%
② ややそう思う	48.1%
③ どちらともいえない	0.0%
④ あまりそう思わない	0.0%
⑤ そう思わない	0.0%

ボランティア活動を通じて、学んだことはありましたか。

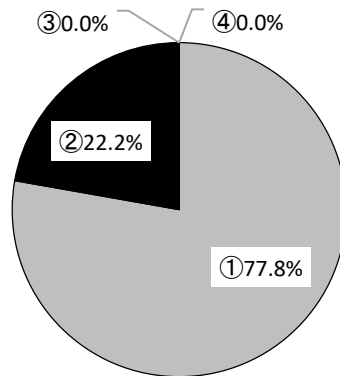


4 ボランティア活動を通じて、学んだことがありましたか。

① あった	92.6%
② なかった	7.4%

- 一緒に考えることの大切さを知った。
- 子どもの接し方や気遣う大切さを身につけることができたと思います。
- 子どもと関わる楽しさや宇宙の面白さに触れられた。
- 自分が知らなかった宇宙について知ることができた。家でもっと調べてみようと思う。

子どもと関わることについて、意識に変化はありましたか。

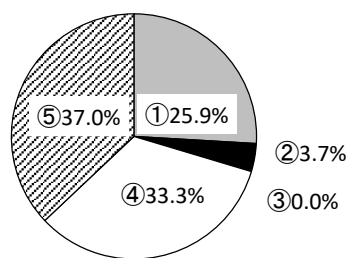


- ①関わりたいとより強く思うようになった
- ②関わりたいと思うが変化はない
- ③関わりたいという気持ちは弱くなった
- ④関わりたいと思わない

5 子どもと関わることについて、意識に変化はありましたか。

①関わりたいとより強く思うようになった	77.8%
②関わりたいと思うが変化はない	22.2%
③関わりたいという気持ちは弱くなった	0.0%
④関わりたいと思わない	0.0%

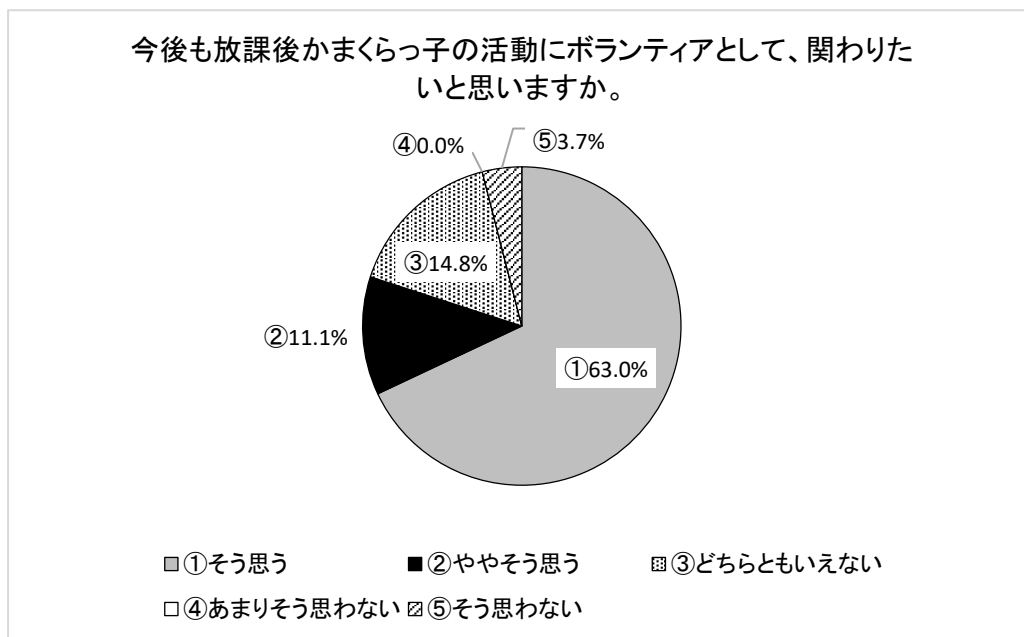
活動を通して、教師など子どもと関わる仕事につきたいという気持ちに変化はありましたか。



- ①以前からつきたかったが、より強くなった
- ②以前からつきたかったが、変化はない
- ③以前からつきたかったが、弱くなった
- ④以前は思わなかったが、つきたいと考えるようになった
- ⑤以前から思ってたなく、特に今もつきたいとは思わない

6 活動を通して、教師など子どもと関わる仕事につきたいという気持ちに変化はありましたか。

①以前からつきたかったが、より強くなった	25.9%
②以前からつきたかったが、変化はない	3.7%
③以前からつきたかったが、弱くなった	0.0%
④以前は思わなかったが、つきたいと考えるようになった	33.3%
⑤以前から思ってなく、特に今もつきたいとは思わない	37.0%



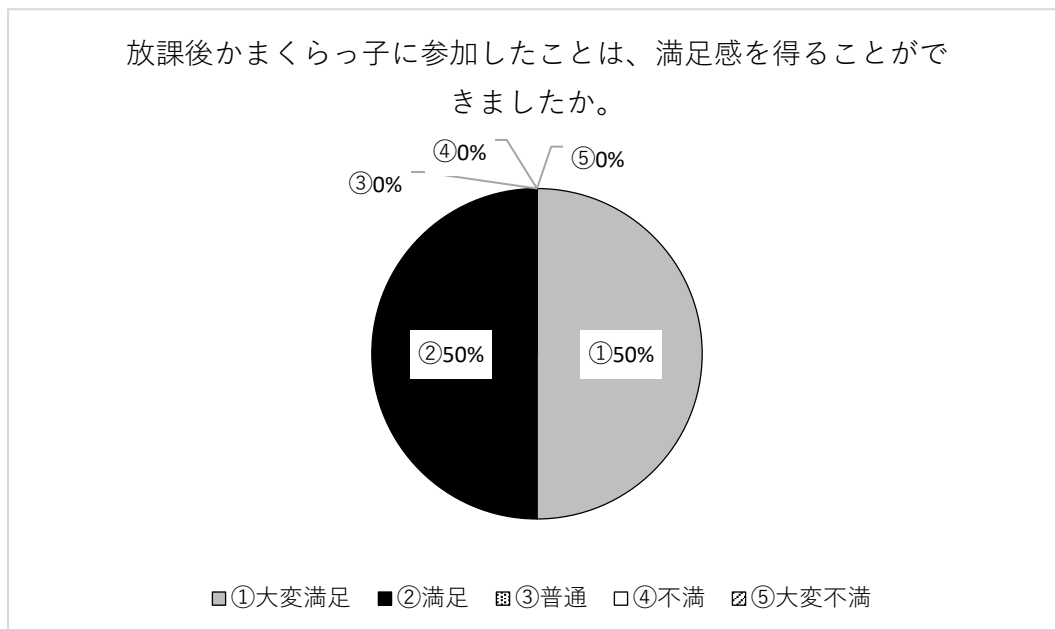
7 今後も放課後かまくらっ子の活動にボランティアとして、関わりたいと思いますか。

※未回答 1

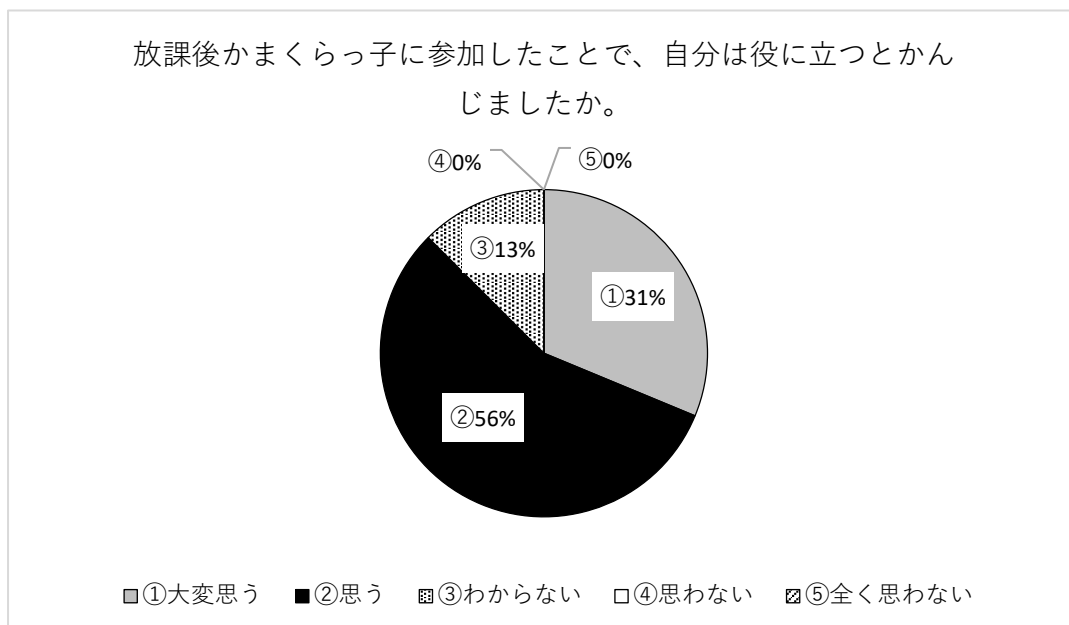
① ① ① ① ①	63.0%
② ② ② ② ②	11.1%
③ ③ ③ ③ ③	14.8%
④ ④ ④ ④ ④	0.0%
⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤	3.7%

V) 放課後かまくらっ子に参加している大学生へのアンケート

令和元年度に放課後かまくらっ子に継続的に参加した大学生30人にアンケートを実施しました。

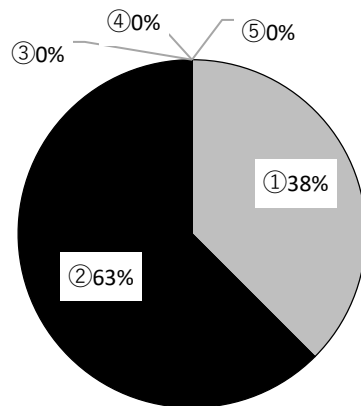


- ・参加した学生は全員が満足を感じることができた。



- ・8割以上の学生が、自己肯定感を感じることができた。

放課後かまくらっ子に参加したことは、あなたの将来に役立つと感じましたか。



□①大変思う ■②思う 罟③わからない □④思わない 𠂆⑤全く思わない

放課後かまくらっ子参加者アンケートまとめ

- ・異年齢との関わりなど、日常とは異なる活動に参加したことで、自己肯定感や達成感を感じています。
- ・ボランティア活動に参加したことで、新たな学びへの関心や将来を考える契機となっています。
- ・放課後かまくらっ子に継続的に参加している大学生の満足度、達成感は大変高い結果となっています。

放課後かまくらっ子とは・・・

放課後かまくらっ子は、全ての児童が放課後等の時間を安全・安心に過ごすことができ、多様な活動体験ができる事業として、市内全小学校区において実施しています（R2年12月に全校実施予定）。

3 アンケート調査結果からみえる青少年の現状

青少年にとって居心地のよい場は、安全・安心を感じることができる自宅など、自分のペースで過ごすことができる場といえます。

スマートフォンなどの普及により、自宅にいながらゲームや音楽を気軽に楽しめたり、広く多様な情報を得られることで、一人で過ごす時間が居心地のよいものとなっています。

一方で、令和2年3月に新型コロナウイルス感染症防止対策として講じられた学校の臨時休校等による外出自粛により、友人と思うように会えなくなったこと、また、家族と一緒に過ごす時間が増えたことなどから友人や家族との関係を改めて見直す契機になったことがうかがえます。

「成人のつどい」や「臨時休校に関するアンケート」から、進学や就職といった将来に対する不安や困り感が高いことがうかがえます。

悩みや困っていることがある人は不安や困り感がない人に比べ、一人が居心地がよいと感じている一方、地元のためにボランティア活動に参加したいなど、地域貢献への関心が高くなっています。

毎年のように地震や台風等による甚大な被害が起きている中、ボランティアによる復旧支援活動のニュース等が報じられる機会が多くなったことで、ボランティア活動に対する理解や関心が高くなっていることがうかがえます。

実際に、ボランティア活動に参加した学生のアンケート調査から、新たな気付きや自己肯定感を感じることができたこと、将来を考えるきっかけづくりに繋がっていることがわかります。

ボランティア活動などの社会参画を通して、自分が社会の中でどのような役割を果たすことができるのか、自分らしい生き方を模索したいという表れではないかと考えられます。

写真貼付

写真貼付

第3章 計画の基本的な考え方

1 理念

- ・歴史と文化のまち、鎌倉に住むわたしたちは、
毎日の生活の中で、自然と人とふれあい、出会い・喜び・感動を体験し、思いやりと正義を学びます。
夢・希望・誇りを持ち、安心して暮らすことができる自立と共生の社会を実現します。
- ・子ども・若者は、
親や教師・地域の大人に習い、また、仲間を大切にします。
自分の課題や役割に取り組み、失敗を恐れず目標に挑戦します。
鎌倉の歴史と自然に学び、これからの鎌倉の担い手となります。
- ・大人は、
市民としての、親としての責任を自覚し、子ども・若者の手本となります。
地域とのつながりを大切にして、鎌倉のまちづくりと子ども・若者の育成に努めます。
- ・行政は、
家庭・学校・地域と連携して、子ども・若者を健全に育成する環境を整えます。

2 目標

- 目標 1**
感動体験を通じて、
豊かな人間性を育てよう
- 目標 2**
人と人とのつながりの中で社会
の担い手となるための社会性と主
体性を育てよう
- 目標 3**
鎌倉の自然・歴史・文化と
かわりながら、鎌倉を愛する
心を育てよう
- 目標 4**
子どもと共に、大人も成長
しよう
- 目標 5**
気軽に相談でき、支援を受けら
れ、安全安心に暮らせるまちな
しよう

3 主要な取組

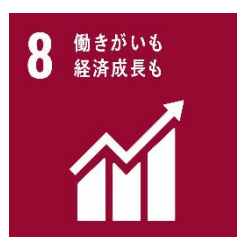
- 自然とのふれあいを通じた豊かな人間性の育成
- 体験活動を通じた豊かな人間性や創造性の育成
- イベント・キャンペーン等による育成事業の推進
- 地域との連携による青少年の育成
- 青少年育成団体への支援と連携
- 世代間交流の推進
- 鎌倉での多様な体験をとoshした郷土愛の育成
- 鎌倉の歴史・文化を学ぶことによる郷土愛の育成
- 大人の教育力や大人自信を成長させるための施策の推進
- 相談・支援体制の充実
- 健全育成の環境整備
- 基本的人権の尊重、共生社会の推進

4 計画の視点

第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画は、「SDGs」、「共創」、「共生」の視点に配慮した計画です。

「子ども・若者育成プランの推進に当たっては、SDGsの達成や共創・共生の取組と整合が図れるよう取り組みます。

◆青少年の育成・支援に特に関連するSDGsのゴール



第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画においてSDGsの達成に向けた取組の方向性を示しています。

青少年が自立・参画・共生していく基礎を育み、青少年が心身ともに健やかに成長し社会参画ができるよう、居場所づくりやキャリア教育の充実を図ります。

また、地域が青少年を育て、成長した青少年が時代の地域づくりを担える風土を醸成していきます。

◆鎌倉市共生社会の実現を目指す条例（抜粋）

（基本理念）

第3条 共生社会の実現に向けた取組の推進は、市、市民及び事業者が、それぞれの責務又は役割を果たし、相互に協力しながら、次に掲げる理念に基づき行うこととする。

- (1) 市民が、その個性や多様性を尊重され、自分らしくいられること。
- (2) 市民が、お互いを支え合い、助け合うことで、安心して生活できること。
- (3) 市民が、社会の一員として、自らが望む形で、あらゆる分野における活動に参画する機会を確保されること。

市はもとより、地域住民や事業者が、相互に連携、協力しながら、青少年が地域の中で自分らしい生き方を実現できるとともに、共生社会の一員として、自分の役割を果たすことができるよう支援します。

◆子どもがのびのびと自分らしく育つまち鎌倉条例（抜粋）

（基本理念）

第3条 子どもへの支援は、次に掲げる基本理念に基づくものとする。

- (1) 子どもが、障害の有無、性別、国籍、経済状況、家族のかたち等にかかわらず、差別、体罰、いじめ等を受けることがなく、安心して生きていくことができるよう、一人の人間として尊重されること。
- (2) 子どもが、心身の健やかな成長を妨げられることがないよう、子どもの最善の利益が追求され、児童虐待を受けることがなく、安心して生きていくことができる環境が整えられること。
- (3) 子どもが、成長の段階に応じて学び、生活の支援を受けることで、社会で生活する能力を身に付けること。
- (4) 子どもが、何を思い、何を感じながら行動し、又は活動しているのか理解され、一人一人の個性や可能性を伸ばすことができる環境が整えられること。
- (5) 子どもへの支援は、市、保護者、地域住民等、育ち学ぶ施設の関係者及び事業者がそれぞれの責務や役割を果たすとともに、相互に連携協力して継続的に行われること。

※この条例では、子どもの定義を18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者としています。

この条例では、子どもを支援するための基本理念、子どもの支援に関する施策を総合的かつ継続的に推進するための基本となる施策を定め、「子ども・子育て支援事業計画（鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン）」において子ども・子育て施策を推進します。

青少年の育成・支援に当たっても、この条例の基本理念を継続して進めます。

第4章 施策の方針

令和2年4月に策定した第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画において、次世代を担う青少年一人ひとりの自立に向けた環境づくりを推進することを目標としています。

目標とするまちの姿の実現に向け、「青少年の居場所づくり」と「地域の担い手となる青少年の育成」を主な取組として位置付けます。

目標とするまちの姿

青少年一人ひとりが多様な体験や活動を通じて、夢や希望を持って様々なことに挑戦し、多くの人々との関わりの中で地域を支えられるような大人に成長しています。

地域に青少年が集うことのできる居場所や社会参画の機会・仕組みが整っています。

◆施策の方向性

青少年にとって、一番居心地のいい場所は、安全で安心を感じることができる自宅ですが、人は社会の中で、仲間とともに生きていくことから、仲間と過ごすことの意義を感じることができる場が必要です。

青少年が身近な地域の中で、仲間とともに多様な活動を経験することで、自己肯定感を感じることができる取組を進めます。

身近な地域で多様な世代の人々との交流をとおして、自分の役割や自分らしい生き方について模索する糸口となることが期待できます。

青少年が、将来の鎌倉の担い手として、自立した大人に成長するための支援を進めます。

◆施策の展開

○青少年が地域の中で、自分のペースで安全で安心して過ごすことができる場の提供に努めます。

○青少年が自ら企画・運営するイベント等を支援します。

○青少年が身近な地域の中でボランティア活動等の社会参画ができる体制づくりを進めます。

○放課後かまくらっ子において中高生、大学生等がボランティアとして参加することができる場を提供します。

○中学校や高等学校等との情報共有するための関係づくりや体制づくりを進め、青少年のニーズ把握に努めます。

○中学校や高等学校等との連携を強化し、ボランティア活動やインターンシップ等ができる機会を推進します。

◆重点事業

「青少年の居場所づくり」と「地域の担い手となる青少年の育成」の取組を推進するため、次の事業を重点事業とします。

○重点事業1 放課後かまくらっ子推進事業

- ・青少年が自立・参画・共生していく基礎を育むため、放課後かまくらっ子に中高生及び大学生等が参画することで、自己肯定感を得たり、将来を考える契機となる仕組みを提供します。
- ・放課後かまくらっ子が広く地域づくりの拠点となるよう、有識者による放課後かまくらっ子推進部会からの助言等を参考に推進します。

○重点事業2 育成事業

- ・青少年団体の協力によるジュニアリーダー等を広く育成し、発達段階に応じた社会参画の機会を創出します。
- ・当事者が企画、運営する成人のつどいなどのイベントを支援します。
- ・子ども会や町内会等のイベントにジュニアリーダー等が参加するなど、地域で青少年を育成する風土を醸成します。

◆推進体制と進行管理

推進に当たっては、学校や地域等、関係機関との連携を図ります。

毎年度、放課後かまくらっ子に参加した中・高生及び大学生等を対象としたアンケート調査を実施するなど、進行管理と評価を行います。

鎌倉市青少年問題協議会において進捗状況を評価し、改善に繋がります。

